

高田先生召天10周年に寄せて

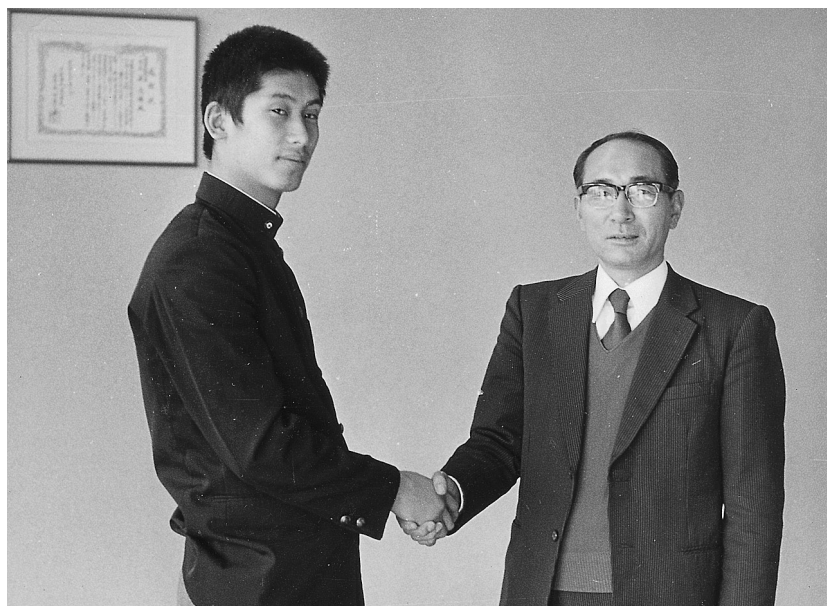
(株)長谷部 門 田 富 昭 (76期)

昭和49年4月、商学部商学科に入学、硬式野球部に入部して意気揚揚としていたのですが、すぐに大学野球の洗礼が待っていました。投手希望でありそう思って入部したのですが、いままでなかった内野ノック、それも200本ノックでした。高校時代は走るだけで良く、内野ノックなど受けたことがなかったのです。私の守備は大学に入り鍛えられたと言えます。その200本ノックは、100本位で足に鉛がついたようになり、150本頃には意識が朦朧となりました。その後はただ手と足を出すだけの状態であったと記憶しています。終了後、グラウンドに大の字になり青い空を見たときの心地よさは今でも忘れません。また、一年生の必須科目の球拾いも大変でした。竹やぶと草むらでボールが見つげにくく、笹や竹で手や足を切ることもありました。

野球部での一番の思い出は4年生の春の大会で完全試合をしたことです。対戦相手はエース石井（広島東洋カープ入団）を擁する久留米大学、石井投手が前の試合で無四球無安打を達成していたので、球場にはプロ野球の各球団のスカウトが見にきていました。3回までは無難な投球でアウトカウントを取りましたが、4回を終えて意識をしたせいか再三ボールが先行しノースリーから何とかアウトを取りながらの達成でした。その試合のお陰でその年のドラフト会議で横浜大洋ホエールズ（現横浜ベイスターズ）に一位指名されました。これも久留米大学の石井投手とスカウトのお陰だと思っています。高校では春の選抜大会で甲子園に出場し、プロ野球の世界にも入った私ですが、人生の中で心残りなのが大学野球の頂点である神宮大会に出場できなかったことです。そのシーズンは同率首位の優勝決定戦で八幡大学（現九州国際大学）に僅差で負けたのです。高田先生にも「シャンとせんか、しゃーがるっぞ」と叱咤激励されて頑張ったのですが……。

思えば先生には公私にわたり大変お世話になりました。よく球友達と食事に誘ってくださり、明日から又頑張れと励まされました。大学の4年間は学問だけでなく、野球を通して人生も教えていただきました。

その高田先生が亡くなられて早くも10年を迎えます。この10周年記念誌に載せていただく感謝と共に心からご冥福をお祈り致します。



九州六大学野球春季リーグ戦

西南 優勝ならず！

九州六大学野球春季リーグ戦の優勝決定戦は、同率首位となった本学と八幡大学の間で、去る五月二十七日、平和台球場において行われた。
試合は七回まで緊迫した投手戦となったが、八回、本学はちょっとしたリズムの狂いから3点を失い、結局0-3で惜敗、十九年ぶりの優勝はならなかった。

西福戦 圧勝

去る五月二十五日に行われた恒例の西福戦（対福岡大）は波に乗る本学が、2-2の同点で迎えた六回裏、長短16安打の猛攻で一挙7点を入れ、更に七回には3点を加え、12-3と一方的に試合を決めた。

門田投手完全試合達成

本学のエース門田富昭投手（商四）は五月八日の対久留米大戦においてすばらしいピッチングを見せ、完全試合を達成した。リーグ史上二人目。



力投する門田君

西南学院大学広報第41号（昭和52年7月1日）

西福戦4連勝

門田投手通算42勝

九州六大学野球秋季リーグ戦の最終日である十月二十日、西福戦（対福岡大）はその熱戦を展開した。
優勝が決まり、念願のリーグ戦優勝はならなかったが、八幡大と並び準優勝の座を確保した。
なお、大学生活四年間を一部員として、またマネージャーとして縁の下で力持ちの活動をしてきた広瀬貴之君（商4）は、六回表、ピンチヒッターとして、見事センター前にヒットを打ち、サインや応援席の惜しみない拍手と声援を受けた。同君にとって大学生活の貴重な思い出としていつまでも心に残ることだろう。

試合は、四回に先取点を許したものの、五回には同点とし、さらに七回、ピンチヒッターの富岡弘英君（法2）のタイムリーなどで決勝の二点を奪い、対福岡大との連勝記録を4に伸ばした。

試合経過

西南大 00000102000 3
福岡大 00001000000 1

この試合を待たずに久留米大の

西南学院大学広報第42号（昭和52年11月9日）